

invested in Asia 2.0

eastspring
investmentsA Prudential plc (UK) company 

アジアのグリーン経済成長 への投資



アジアは、高度な製造業、技術開発力、膨大な天然資源を背景に、世界のグリーン経済成長、特にクリーン・エネルギーの分野で主導的な役割を果たすことでしょう。これにより、太陽光発電や風力発電、電気自動車(EV)のサプライチェーンといった分野に魅力的な投資機会が生まれることでしょう。

私たちのホワイトペーパー『[アジア 2.0:新たなチャンスの時代への投資](#)(2023年6月)』で、私たちはアジアの変革が再生可能エネルギーと電気自動車(EV)の分野にビジネスチャンスをもたらすと強調しました。アジアは2030年までに世界のGDPの40%を占めるようになると予想されており、この地域の力強い成長はエネルギー需要の増加を伴うものです。現在、アジア地域の電力源の大半は石炭発電が占めており、より持続可能な未来を確実なものにするために、アジアは再生可能エネルギーにとって世界最大の市場のひとつとなるでしょう。中国は現在、太陽光発電と風力発電の分野で世界最大の発電設備生産国であり、韓国は水素技術におけるパイオニアであり、インドは太陽電池機器の製造で躍進しています。

輸送部門の電化もまた、アジアのグリーン転換の重要な側面となります。国際環境経済研究所(IEA)によると、CO₂の直接排出量の24%を道路輸送が占めています。アジアの技術力の向上は、輸送部門の電化の促進を可能にします。アジアはすでに、インドネシアの膨大なニッケル埋蔵量から韓国の水素燃料電池やバッテリー技術に至るまで、EVサプライチェーンに沿ってニッチな能力を有しています。

再生可能エネルギー

2030年までに、アジアの再生可能エネルギー容量は2,409ギガワットに達し(図表1参照)、これは世界の57.4%を占めると予想され、その大部分を中国とインドが占めることとなります。

図表 1: アジアの再生可能エネルギー容量¹

(単位:ギガワット)



出所: Fitch Solutions のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)作成。※ f は予測値。

中国はアジアにおける再生可能エネルギーへの移行、特に太陽光発電への移行で世界をリードしています。現在、中国は世界の太陽光発電容量の39%を占めており、この数値は2030年には43%まで上昇すると予想されています(図表2参照)。中国は、ポリシリコン、インゴット、ウェハーといったソーラーパネル生産に使用される主要部品の主要生産国です。IEAは、2025年までに中国が世界のポリシリコン、インゴット、ウェハー生産量の95%を占めると予測しています。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

※ご留意いただきたい事項を最終ページに記載しております。

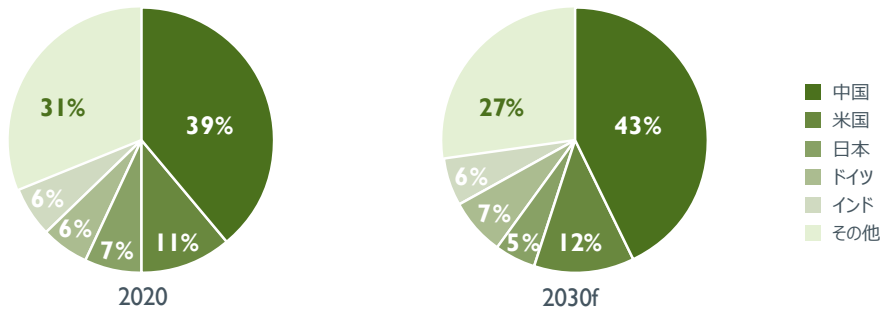
イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

230828 (01)

invested in Asia 2.0

図表 2: 世界の太陽光発電容量の国別割合(%)

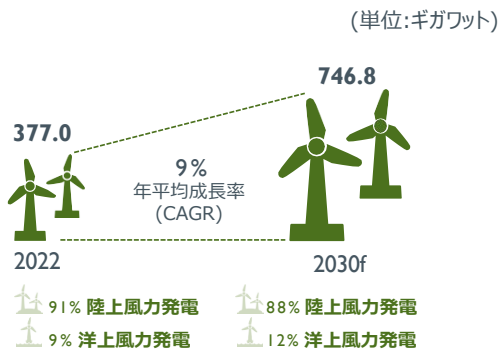


出所: Fitch Solutions のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)作成。※ f は予測値。

インドはこれまで主要だった石炭発電からのエネルギー転換を進めており、太陽電池とそのモジュール製造の能力開発にも力を入れています。インドは2022年から2030年までに、再生可能エネルギーの発電容量を120ギガワット以上拡大すると予想されており、この増加分の3分の2以上を太陽光発電が占めるとされています。

中国は太陽光発電以外にも、主要な風力発電の分野においても世界最大の発電設備生産国であり、陸上風力と洋上風力の両方で最大のシェアを誇ります。コストが低いため、欧米の風力タービン・メーカーにとって中国は調達先として魅力的な選択肢となっています。2022年から2030年の間に、中国の風力発電容量はほぼ倍増の747ギガワットになると予想されています(図表3参照)。

図表 3: 中国の風力発電容量の推移



出所: Fitch Solutions のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)作成。※ f は予測値。

一方、韓国は2030年までに発電容量の22%を再生可能エネルギーで賄うことを目指しており、洋上風力発電の分野で世界をリードすることを目標に掲げています。

韓国の洋上風力発電容量は、2022年から2030年の間に6倍以上の858メガワットに増加すると予測されています(図表4参照)。韓国は風力発電能力を増強している一方で、すでに世界の定置型水素燃料電池の設置容量の半分を占めており、水素社会への移行で世界をリードしています。韓国の水素産業の市場規模は2030年には200億米ドルに達すると予測されています。

図表 4: 韓国は再生可能エネルギーを積極的に推進

風力発電容量(単位:メガワット)		
	2022	2030f
陸上風力発電	1,756.5	6,496.6
洋上風力発電	136.0	858.5

2040年水素経済活性化ロードマップ*		
	2022	2040
水素自動車 (単位:台)	81,000	6,200,000
水素ステーション (単位:基)	310	1,200
燃料電池の使用 (単位:メガワット)	1.5	15.0
燃料電池の使用 (単位:メガワット)	50	2,100

出所: Fitch Solutions、韓国産業通商資源部のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)作成。※ f は予測値。

invested in Asia 2.0

電気自動車(EV)とEV関連サプライチェーン

気候変動を背景に、今後の輸送部門は電動化が進みます。自動車、列車、トラック、船舶を動かし、飛行機を飛ばすために化石燃料が燃やされている現在、電動化は環境に優しい移動手段への移行の鍵となります。

世界的に見ると、乗用EVの市場普及率はまだ低く、自動車総販売台数のわずか15%にすぎません。またアジアでのEVの普及にも国・地域によって“ばらつき”があります。2022年には、中国では総自動車販売台数の27.6%がEVでしたが(図表5参照)、インドネシアでは乗用EVは総販売台数の1%未満でした。アジア各国のゼロ・カーボン目標、より良い充電インフラ、より安価で効率的なバッテリーは、今後EVの普及を促進することでしょう。2030年には、世界の乗用車EV販売台数の52%をアジアが占めるようになると予想されています。現在、多くのアジア経済圏には電動化の機が熟した広大な未開拓市場があります。世界最大のEVメーカーである中国は、世界的なEV需要の拡大から恩恵を受ける好位置にあります。

図表 5: 中国の自動車販売に占めるEVの割合



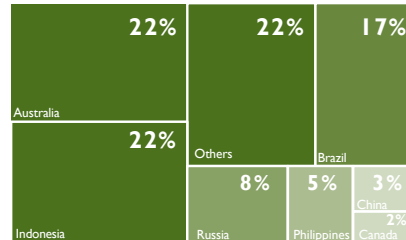
出所：Fitch Solutions のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)作成。※ f は予測値。

内燃機関自動車(ICEV)ではエンジンとトランスミッションが基幹部品であるのに対して、EVはバッテリーが基幹部品となります。EV用バッテリーの高いコストは、EVとICEVの価格差の最大の要因となっています。バッテリー性能は、EVの航続距離や安全性、充電インフラを左右し、EV購入検討者の決断を左右します。したがって、EV用バッテリーとそのサプライチェーンは、輸送部門の電動化において重要な役割を果たします。アジアはEV用バッテリーのサプライチェーンにおいて重要な役割を担っています。世界最大のEV用バッテリー製造メーカーは中国、韓国、日本の3か国です。

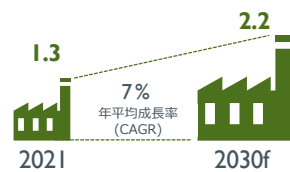
インドネシアは、EV用バッテリーの主要部品であるニッケルの埋蔵量が豊富です。川下の鉱物加工を発展させ、EV用バッテリー産業における主要プレーヤーになるというインドネシアの国家ビジョンは、経済を変革し、経済成長の次の段階を支えることができます。インドネシアのニッケル精錬生産量は、2022年から2030年の間に約3倍の82.8万トンに増加すると予想されています(図表6参照)。

図表 6: インドネシアのニッケル埋蔵量と生産量

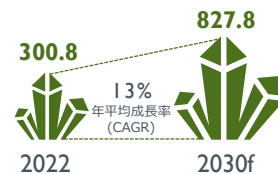
2022年の国別ニッケル埋蔵量シェア



ニッケル鉱山の生産量(単位:メガトン)



ニッケル精錬生産量(単位:千トン)



出所：アメリカ地質調査所(USGS)のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)作成。※ f は予測値。

アジアのグリーン成長への投資に向けて

アジアの再生可能エネルギー企業とEV企業、そしてEV関連のサプライチェーンで事業を展開する企業は、株式投資家と債券投資家の双方に投資機会を提供しています。新興アジア(中国を除く)におけるサステナブル債券の発行総額は2021年に350億米ドルに達し、2013年以降、公益事業、金融、エネルギーといったセクターが発行総額の70%近くを占めています。

これらのセクターへの投資を進める際には、“過熱した人気”がバリュエーションを押し上げているケースがあるため、アクティブ運用による選別的な投資が依然として重要です。原材料コストの上昇や価格競争の激化も、特定の企業やセクターの収益性を低下させる可能性があります。

invested in Asia 2.0

一部のセクターでは、政府からの支援と安価な資金調達が過剰生産能力の問題を引き起こしている可能性があります。一方、新たな規制要件や消費者の嗜好に素早く適応する技術的ノウハウを持つリーダー的企業は、同業他社を引き離し圧倒的な地位を占める存在となることでしょう。隠れた投資機会を探し出すには、注目を浴びて人気の“企業”や“テーマ”に着目するだけでなく、もっと深く掘り下げることが重要である場合が多いのです。

(脚注)

1. 送配電グリッドに接続された水力以外の自然エネルギー(太陽光、風力、バイオマス、海洋、地熱)の発電設備が供給できる最大出力(周囲条件に合わせて調整)を指します。
2. アジアは、国連統計局による地理的分類に基づくアジアの経済圏を指し、台湾も含まれます。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）が作成した資料をもとに、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。○抄訳には正確性を期していますが、必ずしもその完全性を担保するものではありません。また、必ずしも原資料の趣旨をすべて反映した内容になっていない場合があります。